

会 議 録

会議名 (審議会等名)		第7回相模原市広域交流拠点基本計画検討委員会		
事務局 (担当課)		都市建設局まちづくり計画部広域交流拠点推進課 電話 042-707-7047 (直通)		
開催日時		平成26年2月7日(金) 18時30分～20時00分		
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム1		
出席者	委員等	18名(別紙のとおり)		
	事務局	8名(都市建設局まちづくり計画部広域交流拠点推進担当部長、都市建設総務室長、広域交流拠点推進課長、広域交流拠点推進課担当課長、都市計画課総括副主幹、交通政策課長、環境経済局経済部産業政策課総括副主幹、商業観光課長)		
公開の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可	<input type="checkbox"/> 不可	<input type="checkbox"/> 一部不可
		傍聴者数	3人	
公開不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		<p>1 あいさつ</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 第6回検討委員会における主な意見について</p> <p>(2) 広域交流拠点基本計画(案)概要版について</p> <p>(3) 広域交流拠点基本計画(案)について</p> <p>3 その他</p>		

審 議 経 過

出席委員数が定足数に達していることを確認後、議事に入った。

主な内容は次のとおり。(□は会長、○は委員、●は事務局の発言)

- (1) 第6回検討委員会における主な意見及び広域交流拠点基本計画(案)について
- 事務局から第6回検討委員会における主な意見及び意見を踏まえた上での修正箇所を説明後、広域交流拠点基本計画(案)について意見交換等を行った。主な発言は下記のとおり。
- 修正ではなく削除した部分もあれば説明いただきたい。
 - 全体的なバランスを考えて、駅前広場の細かい表現は省いている。
 - 修正案について、全体的なご意見を伺いたい。
 - 広域交流拠点としては、橋本から相模原までの間で JR 横浜線によって南北分断がされている区間も一体化して考えていくことが必要。長期間を見据えての計画ならばしっかりと位置づけるべきである。費用等の問題もあるが、JR 横浜線の立体化、地下化など分断を解消する要素を入れ、計画として将来のまちづくりが読み取れるような表現にすべき。
 - 広域交流拠点形成の基本方針図のなかで JR 横浜線による南北分断の解消を示し、その具体的な取組みとして JR 横浜線の連続立体交差化の調査検討を示している。表現については手法をわかりやすく修正したい。
 - これまでの委員会において、圏央道整備に伴い相模原 IC から橋本駅までのダイレクトアクセスによる幹線道路の整備が望まれるという意見があったと思う。国道 16 号と交差する幹線道路については、国道 16 号がネックとなり広域アクセスに影響を与えるのであれば、渋滞が慢性化している国道 16 号を立体化するという機能強化をしていただきたい。
 - 具体的な施策の要望ということで、ご意見として頂戴する。
 - 国道 16 号については、交通量が集中しているのが現状である。橋本駅周辺をみると国道 16 号は中心的な交通要素だが、俯瞰的にみると圏央道の整備を行っている。圏央道の整備によって国道 16 号の負担も軽減されると予測している。圏央道整備後の交通状況を考慮し、国道 16 号の機能強化の必要性を検討していただきたい。
 - 圏央道の整備後の状況をみて検討を進めるということであるが、当面は国道 16 号の機能強化という表現でいいか。
 - 現状のままでいい。

- 相模原インターチェンジ（以下「IC」という。）と橋本駅を結ぶ交通軸とあるが、橋本と相模原を一体として捉えるならば、相模原愛川 IC からのアクセスも必要ではないか。
- 市内には2つのICがある。距離的に相模原 IC を視野に入れているが方向別のICの活用も見えてくる。相模原愛川 IC からのアクセスについては国道129号を活用したネットワークを想定している。
- 国道129号の機能を検証する必要があるのでは。物流企業等も立地してきており、ネットワーク強化が必要と考える。長期計画としての目線で検討していただきたい。
- 国道129号以外の道路整備ということでもいいか。
- 橋本と相模原を広域交流拠点都市として位置づけるのであれば、現計画では相模原へのアクセスが弱い気がする。現状、国道129号から橋本駅、相模原駅方面への交通渋滞が発生している。圏央道が整備されても交通渋滞が解消されるとは限らないので、将来的な検討材料とすべきである。
- 相模原愛川 IC から北上すると県道503号があり、相模原駅南口にアクセスできる。車線が2車線のため広域ネットワークとして捉えてはいないが、この路線が相模原へのアクセス道路となることから、図面の中で課題として整理する方向で検討したい。来年度から具体的な交通量等の検討をしていく中で道路の必要性を整理していきたい。
- 相模原駅周辺地区を災害時の広域防災拠点とするならば、相模原愛川 IC と相模原駅周辺地区のアクセスは重要である。方向性だけでも出していただきたい。
- 基本計画としては、橋本と相模原の導入機能の方向性が示されており、実際の機能分担については次年度以降の検討課題となる。両駅に必要な機能を持たせて相互に魅力を高めあうとなっているが、両駅間のアクセスが重要。具体的な取り組みの方向性として、両駅間を結ぶ道路整備や公共交通の充実とあるが、このレベルでは連携は難しいと考える。

公共交通ネットワークとして JR 横浜線の南北側に道路ネットワークが示されているが、具体的施策を検討すべき。両拠点の相乗効果によるインパクトを強く打ち出していきたい。

また、相模原地区では広域防災拠点について検討中である。相模原地区周辺はアクセス道路状況が悪いので、橋本地区との連携とあわせて、町田方面や相模原愛川 IC とのアクセスを整理しないと防災拠点が機能しない。今後検討すべき項目の頭出しをして、次の展開が見える計画にしていきたい。
- 橋本駅・相模原駅間の連携の重要性は認識している。今後の整備計画の中で将来的な交通ネットワークや道路機能等の具体的な検討を進めていきたい。

- 橋本と相模原の両拠点間の連携のためには、両駅の間接地の土地利用が重要である。導入機能の方向性として、産業交流拠点形成戦略の中に各拠点形成を示しているが、駅周辺に限らず広域的な視点で捉えることも必要。両拠点間を新しい産業拠点とするには現況の土地利用が前提ではなく、社会情勢に対応した産業拠点等を見据えながら整備を図っていく地区として位置づけるべき。両拠点をつなぐ具体的な都市整備について追記していただければイメージもしやすい。
- 一体化して進めるのはいい。両拠点間の連携は必要だが、将来的な一体化は今後検討すべきものなので、現状の表現でいいのではないか。
- 広域交流拠点都市の発展には、両拠点が中心的役割を果たすことになる。長期的にみれば広域的な視点は必要であるが、現段階での計画としては十分であると思うが、両拠点間のゾーンについて具体的記述はできるか。
 - 両拠点間の土地利用について、現状は工業用地であるが、将来的に道路ネットワーク等が整備された中で、土地利用転換が望まれるのであれば、適切な土地利用を検討していきたい。
- 両拠点が発展すれば中間地区も変わることは想定されることである。現段階では軸の整備ということで整理し、次の段階での検討課題としてはどうか。
- 計画期間としてリニアの大阪開業を根拠に概ね 30 年を見据えているが、30 年でいいのか疑問である。2045 年開業とは JR 東海の認識であり担保がある期間ではないので、この年次を根拠にする必要はないと思う。2025 年には東京圏も人口減少に転じると言われており、2030～2035 年には分岐点がくる。人口減少等の状況の中で 2045 年という計画期間の妥当性を検討すべき。中間点の 2027 年を目標年としてはどうか。
 - 大阪開業時に見込まれるリニアの乗降客を見据えた橋本駅周辺のまちづくりを検討しており、年次よりも大阪開業時点での橋本・相模原のまちづくりを完成させたいと思っている。市全体としては、社会情勢を見極めながら他計画との整合を図っていきたい。
- 2027 年に東京・名古屋間が開通すると東京・名古屋圏が発展し、大阪は衰退していくのではないか。2045 年に大阪がどのような都市になっているかが重要で、橋本と相模原は 2027 年にどこまで整備されるかが重要である。第一段階としての計画を打ち出したほうがわかりやすいのではないか。
- 整備計画等の検討について 2027 年を目標に検討し、2027 年以降についてはその時点で再検討してもいいのでは。

- 情報発信拠点としてのまちづくりということであるが、観光面からリニア沿線の観光スポットの形成ということを追記いただきたい。
- 観光面については、リニア駅、橋本駅周辺及び関東車両基地について記述しているが、リニア沿線による観光要素も重要であるので表現を改めたい。
- 新たな観光開発を進めていく中で観光ルート、観光振興の観点は重要である。新しい観光スポットの形成はぜひ進めていただきたい。
- 相模川を渡る小倉橋は橋梁になるので、リニア通過が外部から見えるような観光スポットとして活用することが必要。
- リニア自体の情報発信と観光産業を含めた地域連携という2つの要素を持たせることだと理解する。
- リニアは、車両基地周辺は速度を落として走行するのでよく見えるが、高速のリニアがどの程度見えるかという問題はある。ただ、地上に出る部分は限られているので、観光スポットの形成は地元としていい提案になる。
- 地域振興ということでは、リニアを最大限活用したまちづくりが必要である。
- 国道16号の機能強化について、幹線道路との交差点のみではなく橋本と相模原の両拠点を形成するうえで、市内の中心市街地の一つである相模大野との連携、また横浜方面、八王子方面との連携も必要であると認識している。市としては国道16号全体の機能強化を図りたい。
JR横浜線の南北分断については、連続立体交差化を検討する方向性を出しているが、国道16号の機能強化については、今後の課題等を調査・検討するという方向性を出している。この表現について意見をいただきたい。
- 国道16号を連続的に立体化するのではなく、市全体における国道16号の役割を考慮したうえでの機能強化を図りたいということだが。
 - 将来的な交通状況を踏まえて調査・検討し、課題となる部分には必要な機能を検討したい。
 - このままの表現で計画に載せていいかという確認であると理解する。
- 市としては、JR横浜線の連続立体交差化とあわせて、国道16号の機能強化についても具体的な検討の方向性を記述したい。
 - 交通ネットワークの方向性で国道16号の機能強化について記述がある。
圏央道の供用開始後の交通状況を踏まえた調査をしたうえでの機能強化という視点が必要である。
 - 追記するという理解でいいか。
 - 今後、具体的に検討する段階において、広域的な視点を含めた調査・検討を行い、将来を見据えた国道16号の機能強化について検討していただきたい。

- 平成 26 年度に国道 16 号について調査を行う予定であり、長期的視点は必要であると認識している。市としても国道 16 号は交通の大動脈と位置づけており、国道 16 号の重要性を考えると、バイパスによる機能強化を考えていきたい。
- 文書を提示してもらえれば関係部署を含めて調整したい。

- 図中の表現を統一してはどうか。また、小田急多摩線延伸は相模原駅までの図示でいいのではないか。
- 図の表現については精査していただきたい。
- 小田急多摩線については、相模原市の都市計画マスタープランにはこの表現で書いてある。市の計画として整合をとるべき。

- 本日いただいたご意見を事務局で整理し、広域交流拠点基本計画（案）として市民の方へパブリックコメントでご意見を伺う流れになる。その意見を踏まえて本計画が策定される。本日が本委員会の最終回となるが、次年度以降も検討は継続され、整備計画の策定に入る。
- 本委員会における活発な審議・議論について感謝したい。本委員会は本日をもって閉会となるが、来年度からは橋本・相模原両地区において、整備計画の策定を検討する予定である。市としては 2027 年をまち開きの第一段階として捉え、今後も市全体で取り組んでいきたい。

以 上

第7回 広域交流拠点基本計画検討委員会委員名簿

No.	区 分	備 考	出欠
1	1 学識経 験者	(1) 岸井隆幸 日本大学理工学部教授	出席
2		(2) 屋井鉄雄 東京工業大学大学院総合理工学研究科教授	欠席
3		(3) 飯島泰裕 青山学院大学社会情報学部教授	出席
4		(4) 市川宏雄 明治大学専門職大学院長 公共政策大学院ガバナンス研究科長	出席
5		(5) 中林一樹 明治大学大学院政治経済学研究科特任教授	出席
6	2 市民等	(1) 田所昌訓 相模原市自治会連合会会長	出席
7		(2) 座間 進 相模原市商工会議所専務理事	出席
8		(3) 齋藤邦雄 相模原市観光協会副代表理事	出席
9		(4) 櫻井正友 市民公募委員	出席
10		(5) 宍戸和夫 市民公募委員	欠席
11		(6) 渋谷隆宏 市民公募委員	出席
12	3 公共交 通事業者	(1) 山口 拓 東日本旅客鉄道株式会社横浜支社企画部長	出席
13		(2) 黒田 聡 小田急電鉄株式会社交通企画部長	出席
14		(3) 高山恒明 京王電鉄株式会社鉄道事業本部計画管理部長	出席
15		(4) 三木健明 神奈川中央交通株式会社運輸企画部長	出席
16	4 関係行 政機関の 職員	(1) 田村俊彦 国土交通省関東地方整備局企画部広域計画課長	出席
17		(2) 榎本考暁 国土交通省関東運輸局企画観光部交通企画課長	代理出席
18		(3) 野田久義 神奈川県産業労働局産業・エネルギー部産業立地課長	代理出席
19		(4) 和田潤一 神奈川県県土整備局都市部環境共生都市課長	欠席
20		(5) 寶珠山正和 神奈川県県土整備局都市部交通企画課長	代理出席
21		(6) 瀬崎瑠里 神奈川県警察本部交通部交通規制課長	欠席
22		(7) 進士力 神奈川県相模原警察署交通第一課長	欠席
23		(8) 太田剛 神奈川県相模原北警察署交通課長	出席
	オブザーバー	二村 亨 東海旅客鉄道株式会社中央新幹線推進本部企画推進部担当部長	欠席